

活動報告 自分の頭で考える力の育成をめざして

学習指導映像記録分析の効果測定

— 新技術振興渡辺記念会助成調査研究 —

探究を指導するためには

- 子どもの興味・疑問や理解の状況を、読み取る力、引き出す力
- (教えないで)子どもが自分で探究する活動を導き支援する力

が必要です。

探究学習の映像記録を対象として、その中で展開される子どもたちの学習指導、またそれを指導する教師の活動のプロセスを、徹底的に観察・分析することによりみがかくことができるのではないかと、昨年から、そのための教材づくりと学習活動をプログラムしてきましたが、その効果測定を、9/18～21、23、10/5の6日間で実施しました。

分析用の学習指導映像記録には、小学校6年生理科、電気の学習(4グループ分、各約1時間)を使用しました。(右下に1つのグループの学習の様子を1時間連続で撮影した映像、左上にその授業における教師の行動を追って撮影した映像を合成したもの。)

目標は複数グループを指導する力の育成

1クラスを担当する教師は、複数グループを併行して指導していかねばならず、短時間でそれぞれのグループに対して適切な指導ができなければなりません。そこで、具体的な行動目標を、最初の2～3分で、学習グループおよび学習者それぞれの問題点を読み取り、適切な行動の仕方のアドバイスや学習の場作りを考える力、としました。今回の効果測定は、用意した教材とプログラムが、その目標のどこまで到達させられるかを測定すること、また、さらに効果をあげるための改善点を探ることを目的として行いました。

学習指導映像分析のプログラムの中心は、1つのグループの探究活動1時間分を観察することです。学習者が、自分の頭で考え行動しているか、何がわかっていて何がわかっていないか、学習者が何を意図しているか、グループワークがうまくいっているか、教師は学習者の状況を読み取っていたか、指導はそれぞれの場において適切であったか、それをじっくり観察することとしました。その活動により学習指導に必要な基本的な視点が育つと考えたのですが、果たしてその結果は・・・。

期待以上の成果

今回の効果測定では、教師を目指す若者たち6人が前向きな姿勢で取り組んでくれました。

学習グループおよび学習者それぞれの問題点を読み取る力、適切な行動の仕方のアドバイスや学習の場作りを考える力は、2日間で期待以上に成長し、この方式の効果を確認することができました。また、教材とする学習活動の内容、映像記録の撮影方法、音声記録の取り方などの改善点も浮かび上がり、より良いプログラムづくりへの方向もつかむことができました。

被験者6人の共通の感想は、「視点をもって分析することによって、どんどん見えるようになっていくことにびっくりした」「自分の学習指導の様子も撮って、ぜひ自分自身で分析してみたい」。詳細については現在整理中、12月には報告書提出の予定。いずれ、研究紀要として刊行する計画です。

JADEC ニュース 77 号 (2008.11) より

